

行動記録リストに戻る

mail は ma.ma@nifty.com まで

ニーゼルさんに招いていただき醍醐寺のお茶会に行ってきました。

お茶会というと堅苦しいイメージを持っている方が多いと思いますが、僕のような初心者でも楽しませていただける素晴らしいお茶会でした。

献茶

表書院泉殿にて

遠いところにいたため細かい部分は見えませんでした。遠目に見た感想は、一つひとつの動きが重々しいというか、きっちりとしているというか、どっしりとした点前でした。

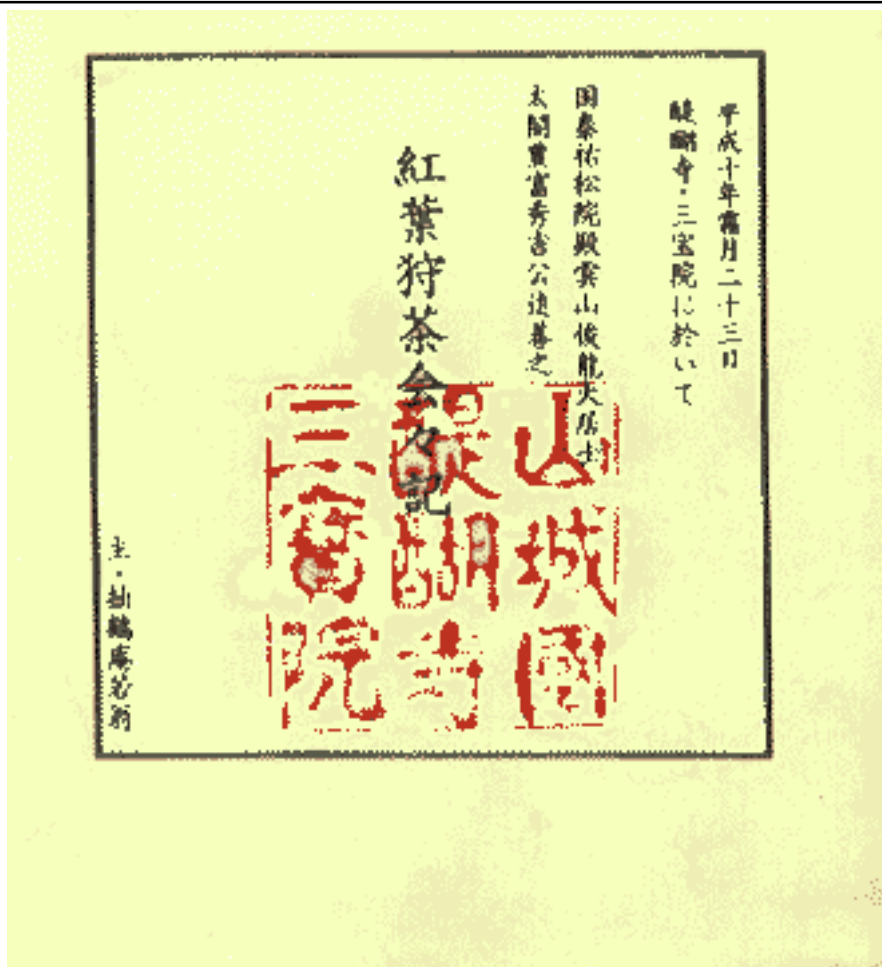
薄茶

白書院にて

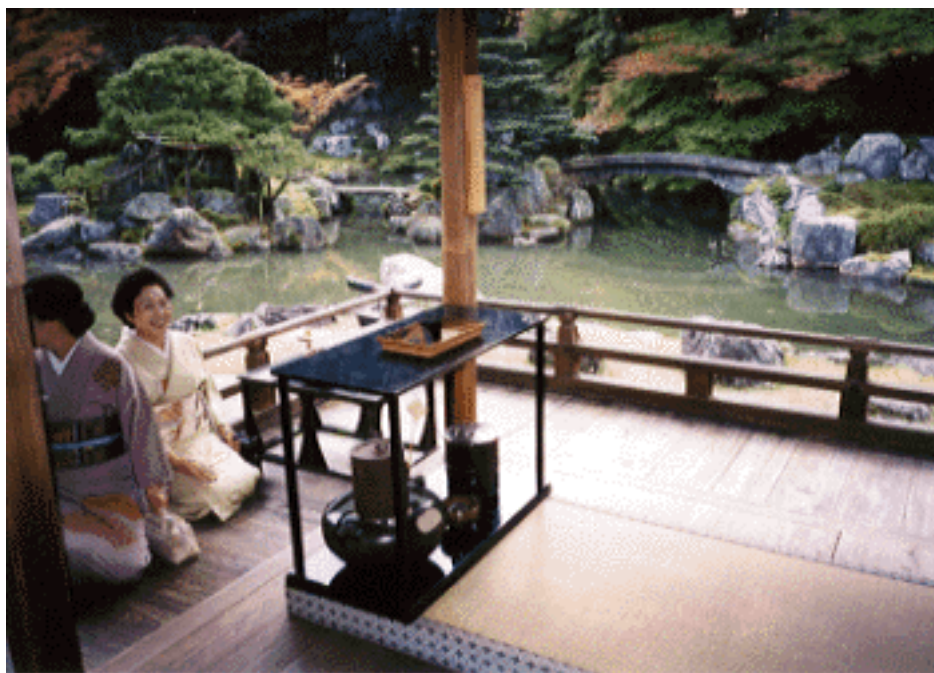
ニーゼルさんのお茶会なので堅苦しくなく楽しめた楽しましましょう。といきなり亭主に勧められ、あぐらをかき人もいる中で始まった、献茶とは正反対のリラックスした茶席でした。

主客の方が話し上手で場が盛り上がり、どちらかという賑やかな茶席でした。

多くの方がお代わりを願ひし、僕も2杯頂きました。2杯目の茶碗が虹色ではないのですがグラデーションがついてとてもきれいなお茶碗だったので、隣の方にしきりに「このお茶碗が素晴らしい」と話していました。隣の方がこの色を出すには日本の窯ではだめで韓国で焼いた物だ...と教えていただき、焼き物に明るい方だなあと思い聞



会記



ニーゼルさんが献茶を行った表書院泉殿から秀吉の墓碑を望む

いていました。話の最後の方でわかったのですがこの方は奥田英山さんという方で、その茶碗をつくった方なのでした。

点心

表書院揚舞台之間にて

食事もおいしかったのですが、一緒に出されたお酒がこれまでに飲んだことがないとてもおいしいお酒でした。このようなお酒をたくさんつくることができれば日本酒も復活するのだろうなあと感じました。

この部屋は国宝で通常は立ち入ることもできないそうです。そんな中でいただいたのでさらにおいしく感じたのだと思います。

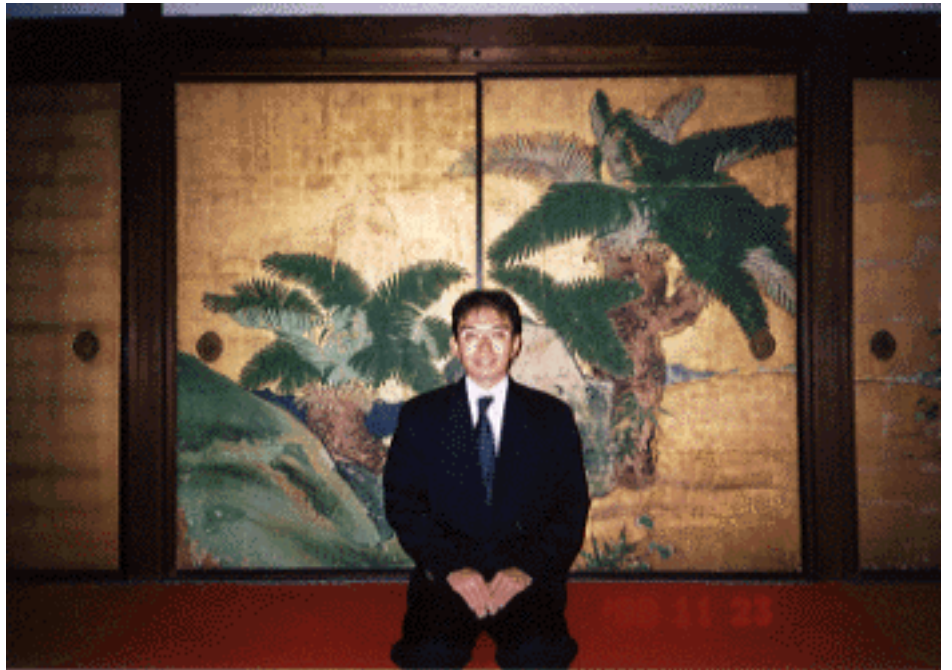
濃茶

純浄観にて

濃茶はニーゼルさんが直々に亭主をされました。まず、部屋に入って圧倒されるのは襖絵のすばらしさです。醍醐の桜が部屋全面に描かれています。

ニーゼルさんの点前を初めて身近でじっくりと見させていただきました。当然の事ながら、うまい。

このお茶会で初めて会った方から、若いときにお茶会をしようとしたら風炉先がなかったので天袋の襖を使った話、お茶用に用意された炭では面白味がないので山まで炭を買いに行き自分で切った話などいろいろな話を聞きました。好きな人はたく



点心をいただいた表書院揚舞台之間の襖絵の前で



濃茶の席にて

98.11.23 醍醐寺お茶会

行動記録リストに戻る

mail は ma.ma@nifty.com まで

さんいるんだなあと思うのと、
大人が遊ぶことができる楽しい
世界なんだなあと実感しました。

ということで僕も釜が欲しく
なってきたのでした。

おわり



濃茶席 浜田秦介さんが書いた襖絵も見事です